

授業改善推進プラン

	1年		2年		3年	
	授業改善の方向	具体的な方策	授業改善の方向	具体的な方策	授業改善の方向	具体的な方策
		(重点項目)		(重点項目)		(重点項目)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し方、聞き方を気を付けさせる。話し方では、語尾に「です。」「ます。」をつけて、ていねいな言葉づかいで発表させる。相手の意見を聞いて、「同じです。」「違います。」等が言えるようになる。</li> <li>読書を奨励し、文型を繰り返し復習し、作文がスムーズにいくようにする。</li> <li>音読・暗唱教材を多く取り入れ、声を出したり聞いたりする時間を大切にす。</li> <li>漢字一文字ずつの意味をおさえながら、使い方の定着を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話型・聴型を取り入れ、語尾に「です。」「ます。」や「なぜかという」と「でも」等の簡単な接続詞をつかって話せるようにする。</li> <li>○作文や日記に取り組み、書く力の向上を図る。</li> <li>○毎日音読し、暗唱させ、発表させる。</li> <li>○宿題プリントや小テストを取り入れ、漢字の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大事などころを考えながら、最後まで話を聞けるようにする。</li> <li>○話型・聴型を取り入れ、語尾に「です。」「ます。」や「なぜかという」と「でも」等の簡単な接続詞をつかって話せたり、相手の意見を聞いて、「同じです。」「違う意見です。」等が言えたりできるようにする。</li> <li>○作文や日記に取り組み、書く力の向上を図る。</li> <li>○毎日の家庭学習で音読を多く取り入れ、声を出す時間を大切にす。</li> <li>○読書、国語辞典などいろいろな文章や言葉に触れる機会を増やし、言語環境を整える。</li> <li>○自分の考えを持てるようにする。</li> <li>○漢字の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週一回、作文の宿題に取り組ませ、心を動かされたもの、伝えたいことを文章に表現させる。</li> <li>○授業の中で音読をしたり、国語辞典を使わせたりする。</li> <li>○東小スタンダードの形や話し方かきくけこ、聞き方あいうえおを意識させる。</li> <li>○よい話し方・聞き方について、国語科だけでなく全教科で取り入れたり掲示したりしながら日常的にできるようにする。</li> <li>○発問を工夫したり、自分の考えを表現する機会を多くしたりする。</li> <li>○漢字の書き取りテストを毎日行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す」個人差がある。声の大きさが全体的に小さく自信がないので、毎日少しずつ全体での話す場面の設定をしていく。(朝の会など)</li> <li>・「聞く」話を聞くときは、話の中心や自分はどう考えるのかを意識しながら聞くことを指導していく。同時に聞く姿勢などの学習規律も指導する。</li> <li>・「書く」作文や感想などを苦手にしている児童が数名いる。順序良く書くなど基本的なことを押さえていく。</li> <li>・「読む」読解が苦手な児童が多い。段落の關係に気付かせ、中心となる語や文脈を見付けることを授業の中でも行っていく。</li> <li>・「言語」漢字の書き方では、雑に書いてしまう児童が多いので、形を整えて書くことを意識させる。詩・短歌・俳句などの暗唱を通して、言葉の響きやリズムに親しむことも取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「話す・聞く」毎朝のスピーチを継続する。司会などの役割を経験させる。話を聞いて、話の中心や自分だったらどう思うかについて言わせる。</li> <li>○「書く」作文することの楽しさや文章を書くことの大切さを教えていく。</li> <li>○「読む」中心となる語や文を見付けること、文章を読んで感想や考えを共有する時間をもつ。</li> <li>○「言語」文字の形を整えて書く指導については継続する。毎日の漢字の宿題を確実にする。読書についても幅広いジャンルのものを読むことを勧める。</li> </ul>
社会				<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や体験学習を通して社会的事象に関心をもち、進んで学習に取り組むことができる。</li> <li>・調べたり見学したりしたことを新聞やワークシート、模造紙などにまとめる学習を意欲的に行っている。</li> <li>・写真や地図などの資料を読み取り、自分の考えにつなげることが苦手な児童が多い。</li> <li>・地図記号や方位等の基礎的・基本的な知識を習得している児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領を分析し、「何を」「どのように」指導するのか、明確にする。</li> <li>○地図記号や方位などを読み取れるように、一つ一つの資料を丁寧に読み取る時間を確保する。</li> <li>○教師から提示する資料を精選し、児童の多様な考えを引き出したり、考えを焦点化したりできるようにする。</li> <li>○フラッシュカードなどを継続的に使って基礎的な知識を定着させる。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な操作活動を取り入れ、数の感覚を豊かにする。ブロックや数え棒などの半具体物を用いることで、数の概念の基礎を、五感を通して育てる。</li> <li>・具体物、言葉、数、図を使って、説明する活動を通して、友達との活動を楽しみ、自分の考えを、確かなものにする。楽しく生き生きと学習に取り組めるように、数の提示や教材教具を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の最初に、3分間練習の時間をとり、基礎基本を身に付けさせる。</li> <li>○友達との考えの交流を経て、問題解決の多様さを共有し、自分の学びに生かせるようにする。また、学習したことがはっきり分かるようなノート作りをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り上がり、繰り下がりの加減計算、筆算は確実にできるようにする。</li> <li>○具体物、言葉、数、式、図を使って説明する活動を通して自分の考えを、確かなものにする。</li> <li>○学年の後半では、ノートに考えを書き、それをもとに話し合うことを大切にし、友達のことを読み取ったり、解決の方法を考えたりする。</li> <li>○楽しく生き生きと学習に取り組めるように、数の提示や教材教具を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中で問題演習の時間を設け、習熟を図る。</li> <li>○めあて、まとめ等、学習の内容を見やすくまとめたノート指導を行う。</li> <li>○スモールステップで学習を進める。</li> <li>○児童の実態に合わせて、ワークシートなどを作成し、考えをまとめやすくするようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少数指導により、個に応じた指導の実効を図る。</li> <li>・計算などの基礎的な力や基礎的内容の理解力を付ける。</li> <li>・「量と測定」領域の定着を図る。</li> <li>・文章題の内容を正しく読み取る力を付ける。</li> <li>・既習事項を使いながら問題を解決する力を伸ばす。</li> <li>・自分の考えを図や式・文章で表し、説明し合う力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別学習では、児童の実態を把握し、各コースに適した指導の工夫を行う。</li> <li>○毎時間の始めに3分計算を行い、計算力を付ける。</li> <li>○ノート指導に力を入れ、繰り返し練習させ、学習の仕方の定着を図る。</li> <li>○新しい単元に入る際には、関連する既習事項を振り返る時間を設ける。</li> <li>○文章題を解く際は、大事な数字や単位を丸で囲んだり、アンダーラインを引かせたりし、文章を読み取る力を身に付けさせる。</li> <li>○既習事項を確認できるよう、授業の始めに振り返りしたり、教室掲示を活用したりする。</li> <li>○算数的用語や図を用いて、自分の考えをまとめたり、相手に分かりやすく説明したりする機会を授業に取り入れる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験から、気付いたことを絵や言葉で表現し、気付きを実感させていく。毎日の生活の中で気付いた季節の移り変わりや動植物の様子について伝え合う。</li> <li>・2年生との交流を多く取り入れ、自分自身の成長や他者との関わりを学ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験活動の際には、観察カードを書かせる。事実に基づいた記述をさせ(色・形・大きさ・数など)自然へと目を向かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な体験から、気付いたことを絵や言葉で表現し、気付きを実感させていく。</li> <li>○毎日の生活の中で気付いた季節の移り変わりや動植物の様子について伝え合う。</li> <li>○1年生との交流を多く取り入れ、自分自身の成長や他者との関わりを学ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験活動の際には、観察カードを書かせる。事実に基づいた記述をさせ(色・形・大きさ・数など)、気付きを実感させる。</li> </ul>		
理科				<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科の学習は初めてなので、関心・意欲が高く、興味を持って取り組んでいる。用語を覚えることが難しい児童もいる。</li> <li>・観察して分かったことなどを観察カードに書けるようになった。</li> <li>・動植物の差異点と共通点を見分けることはほとんどの児童はできているが、適切に理由を述べるのが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察の視点を事前に示し、詳しく観察させる。</li> <li>○結果や分かったことを言葉や絵で説明させる。</li> <li>○授業の中で、「●●と比べて」という表現の仕方を常に用いて、表現方法を身に付けさせる。</li> <li>○観察したものを大きく絵に描き出すような活動を取り入れることにより、はっきりと分かりやすく記録を取る方法を身に付けさせる。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽遊びやリズム遊びを積極的に取り入れて、自然に拍感が身につくようにする。</li> <li>・鍵盤ハーモニカでは特に運指を大切にし、5本指が使えるようになり繰り返し指導する。</li> <li>・聴く時間をとってから表現するようにし、演奏する曲のイメージやどのように表現したいかのきっかけを作るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身体表現や音楽遊びなどの活動を体験させながら拍の流れやリズムに対する感覚を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木琴、鉄琴、トライアングル、鈴、タンバリン、カスタネットなどの楽器にも親しむようにする。</li> <li>・発表の機会を作りお互いの良さを見つけるような活動をする。</li> <li>・鑑賞指導では曲の気分を書き表すことのできる鑑賞カードに書かせたり、それを発表したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身体表現や音楽遊びなどの活動を体験させながら拍の流れやリズムに対する感覚を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視唱の力をつけるために、階名カードを活用したり、掲示しておいたりする。</li> <li>・リコーダー指導は、個別指導を多めに取り、丁寧に指導する。</li> <li>・鑑賞ではワークシートを活用し、自分の思いや考えを書かせたり発表させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○視唱の力をつけさせるために、階名唱でも歌う機会を多くし楽譜に慣れ親しませる。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能が身に付くように指導する。</li> <li>・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。</li> <li>・自他の作品の面白さや楽しさを感じとるように、鑑賞の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味し出合わせる。</li> <li>○短時間の題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。</li> <li>○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見る価値を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙や粘土など身近にある素材に触れる活動を通して、のり・はさみ・クレヨンなどの道具の基本的な扱い方について基礎的な技能が定着し、思い通りに使えるように指導する。</li> <li>・短時間で簡単な操作で表現できる題材を設定し、体全体の感覚や技能を働かせながら、表すことを楽しめるようにする。</li> <li>・自他の作品の面白さや楽しさを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味し出合わせる。既習の技能については前題材+K1N16を振り返りながら、技能が定着するように工夫する。</li> <li>○短時間の題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていけるように、段階的な配列を工夫する。</li> <li>○製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見る価値を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な素材に加え、木切れや厚紙・段ボールなどに触れる活動を通して、水彩絵の具やのり・はさみなどの基本的な扱い方が身に付けられるように指導する。</li> <li>・前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を選んだりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。</li> <li>・自他の作品のよさや面白さを感じとり、それについて語ったり書いたりするような鑑賞の機会を設定する。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びのやり方を知り、ルールを工夫して友達とかかわりながら体を動かす機会を増やしていく。</li> <li>・補助具などを積極的に活用し、児童が安心して、また安全に気をつけて、学習できるようにする。</li> <li>・ルールを守っていた児童や運動の仕方を工夫していた児童を取り上げ、称賛し合う場をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動として、多様な動きを取り入れた運動遊びを行う。</li> <li>○楽しみながら運動量を確保できるよう、授業の始めに、固定道具を使用した運動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら体をたくさん動かせるような遊びを取り入れていく。2人組みや3人組、グループなどの活動形態を工夫し、児童の学び合いの機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動として、やわらか体操、体ほぐしの運動、多様な動き方を取り入れた運動遊びを継続して行う。</li> <li>○楽しみながら運動量を確保できるように、道具を使用した方法を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に対して興味・関心があり、楽しく活動しようとする児童が多い。</li> <li>・育てたい力は、以下のものと考えている。</li> <li>①友達との関わりを通して、基本的な運動技能を高め合える力。</li> <li>②友達と規則を工夫し、協力してゲームをする力。</li> <li>③健康によい生活の仕方や体の発育・発達について理解する力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○(関心・意欲)学習カードを活用し、自分の課題に応じためあてを明確にもたせることで、運動への意欲を高める。</li> <li>○(思考・判断)自分の能力に適した課題をもって活動を工夫したり、ゲームの規則を工夫したりして、協力し合って活動する力を高める。</li> <li>○(技能)友達との学び合いを通して、基本的な技能や動きを身に付けさせる。</li> </ul>
総合				<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を好む児童が多いが、自分なりに課題をもつことまでには至っていない。</li> <li>・社会科との発展的・横断的な学習について、探究的な学習に結び付いていないことが多い。</li> <li>・新聞にまとめたり、他者に発表したりする力としては、個人差が大きい。</li> <li>・友達と協力して活動を進めることができるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○互いに発表し合う等の交流を通して目的意識、相手意識をしっかりともち、情報発信の技能(話し方・紙面のレイアウトなど)を具体的に支援するなどし、聞き手に分かりやすい情報発信ができるようにする。</li> </ul>	

	4年		5年		6年	
	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)	授業改善の方向	具体的な方策 (重点項目)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの意見を聞いて「同じです」「違います」と反応を示すよう指導する。「～さんと同じで～」「～さんと違って～」「～さんと似ている～」というように他人の意見を受けて発表ができるように話し合いの指導、多くできた児童をほめる指導をする。</li> <li>漢字小テストを繰り返し行い、漢字の定着を図る。</li> <li>文章が正しく読めるよう、構造に注目しながら読ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字小テストを繰り返す。</li> <li>文章全体をとらえさせるため、音読はなるべく通し読みさせる。</li> <li>東小スタンダードの読解や話し方、聞き方あいうえおを意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字練習や音読を増やす指導を日常的に行う。漢字と言葉を結びつけた指導を工夫する。言葉の意味と使い方を合わせて指導する。</li> <li>話す、聞くの学習では、立場や意図を明確にして話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができるよう、学級活動と関連させて指導する。</li> <li>図書室の積極的な活用を通して、読書習慣の定着を図る。また、調べ学習で得た知識を活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な漢字テストの実施。</li> <li>語彙力を付けるために国語辞典を活用する。</li> <li>話す・聞く力を伸ばすための、対話を取り入れた授業展開にする。</li> <li>週に一度は必ず図書室を利用し、読書指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本などの指導を目的に行う必要がある。</li> <li>文章を読み取る力を高める必要がある。</li> <li>話す、聞く力を高めるため、話し合い活動を多く取り入れる。</li> <li>漢字の習得と言葉を結びつけた指導を工夫する。</li> <li>同じ意味を表す言葉、様々な言い表し方で表現させ、表現力を高める。</li> <li>活用部分は、話す・聞くなどの領域についてもおおむねできている。</li> <li>ただ、自分の考えを広げて行ったり、誰にもわかるように表現したりすることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間内に、ペーパーワークで説明させる時間を設ける。事例を挙げながら内容や音などを聞いて分かちやすくと説明している児童がいる時は、積極的に取り上げる。</li> <li>聞いた事例を受けてさらに応用的に話すよう、対話を取り入れた授業展開をする。</li> <li>定期的な漢字テストや6年間の総まとめの漢字練習を毎日行うことで、基礎事項を身に付ける。</li> <li>語彙力を増やすために国語辞典を活用する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書資料やインターネットを活用した調べ活動を行い、興味関心を高め、調べたいことや考えたことをレポートにまとめさせる。</li> <li>一つ一つの資料を詳しく読み取らせる。また、複数の資料を関連させるとどんなことが言えるのかを教師が示し、資料を読み取り、説明する力を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読み取る技能の指導を丁寧に行う。</li> <li>調べたいことや考えたことをレポートにまとめさせる。</li> <li>ワークシートの資料活用問題の解説を丁寧に行う。</li> <li>図書資料やインターネットを活用して調べ活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを日常生活の中で活用できるようにするために、本やインターネット等を活用し、調べ学習を授業に多く取り入れていく。</li> <li>問題解決的な学習ができるよう、日常生活の中にある問題点やズレから、学習課題を作らせる指導をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料集や地図帳、インターネット等を効果的に活用していく。</li> <li>児童が課題を見付け、そこから学習問題をたてられるように時間を設定していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを日常生活の中で活用できるようにするために、本やインターネット等を活用し、調べ学習を授業に多く取り入れていく。</li> <li>政治や歴史を学ぶ意義や目的を意図させる。</li> <li>問題解決的な学習ができるよう、日常生活の中にある問題点やズレから、学習課題を作らせる指導をしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料集や地図帳、インターネット等を効果的に活用していく。</li> <li>児童が課題を見付け、そこから学習問題をたてられるように時間を設定していく。</li> <li>資料から必要な情報を読み取り、考えさせることで、資料活用力を付ける。</li> <li>調べたことをもとに伝えたいテーマを自分で決めて、新聞やパンフレット、スライド等にまとめる活動を取り入れる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数指導により、個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>計算などの基礎的な力や基礎的内容の理解力を付ける。</li> <li>文章題の内容を正しく読み取る力を付ける。</li> <li>既習事項を使いながら問題を解決する力を伸ばす。</li> <li>自分からすすんで考えを図や式、文章で表し、伝え合うとる力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別学習では、児童の実態を把握し、各コースに適した指導の工夫を行う。</li> <li>毎時間の始めに3分計算を行い、計算力を付ける。</li> <li>新しい単元に入る際には、関連する既習事項を振り返る時間を設ける。</li> <li>文章題を解く際は、数値に丸、開かれていることに波線を引かせ、問題文を読み取る力を身に付けさせる。</li> <li>既習事項を確認できるように、授業の始めに振り返りをして、教室掲示を活用したりする。</li> <li>算数の用語や図を用いて、自分の考えをまとめたり、相手に分かりやすく説明したりする機会を授業に取入れる。</li> <li>児童にとって楽しく分かりやすい授業になるよう、課題設定を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度に応じた少人数クラス編成を行い、個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>速さと正確さを兼ね備えた計算力を身に付けさせ、四則計算の基礎の習熟を図る。</li> <li>既習事項を生かして、問題を解決する力を伸ばす。</li> <li>自分の考えを図や言葉、式を使って説明し合う力を伸ばす。</li> <li>自分からすすんで考えを表現し、深めようとする姿勢を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度に応じた手立てを工夫する。</li> <li>授業のはじめに計算演習を継続して行い、計算力を付ける。</li> <li>既習事項を提示し、確認できるようにする。</li> <li>自力解決の場面では、言葉、式を使って説明する経験を積ませる。</li> <li>各領域の既習内容を統合させて問題を解決する力を伸ばす。</li> <li>自分の考えを図や言葉、式を使って説明し合う力を伸ばす。</li> <li>自分と友達の方の共通点・相違点は何かを見極め、多様な考え方に触れさせる。</li> <li>児童にとって楽しく分かりやすい授業になるよう課題設定を工夫する。</li> <li>ICTを活用し、児童が意欲的に参加できる授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度に応じた少人数クラス編成を行い、個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>速さと正確さを兼ね備えた計算力を身に付けさせ、四則計算の基礎の習熟を図る。</li> <li>既習事項を生かして、問題を解決する力を伸ばす。</li> <li>各領域の既習内容を統合させて問題を解決する力を伸ばす。</li> <li>自分の考えを図や言葉、式を使って説明し合う力を伸ばす。</li> <li>自分からすすんで考えを表現し、深めようとする姿勢を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度に応じた手立てを工夫する。</li> <li>授業のはじめに計算演習を継続して行い、計算力を付ける。</li> <li>既習事項を提示し、確認できるようにする。</li> <li>必要性・必然性を感じられる課題設定を工夫する。</li> <li>自力解決の場面では、言葉、式を使って説明する経験を積ませる。特に数直線は積極的に使わせ、描き方を身に付けさせる。</li> <li>自分と友達の方の共通点・相違点は何かを見極め、多様な考え方に触れさせる。また、その中でもより合理的な考えを見付けさせる。</li> <li>ICTを活用し、児童が意欲的に参加できる授業を行う。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象から問題を見出し探究を進められるよう、自然事象との出会いを大切に授業を行う。</li> <li>既習事項や既体験をもとに予想を立てられるようにする。</li> <li>基本的な実験技能が身に付くよう、丁寧に行うことと安全確保を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然事象との出会いを大切にすること。</li> <li>結果の整理を全体で行い、視点を与えてから考察させる。</li> <li>実験の予想や結論について文脈に表すことにより表現力を高める。</li> <li>環境や自然事象に関する学習に興味を持ち、日常生活に生かしているように教材の工夫を行っていく。</li> <li>ワークシート等を活用し、知識の理解、定着を図る。</li> <li>変化させる要因と変化させない要因を区別する条件制御の能力を高め、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を明確にして、予想・実験・考察等の問題解決学習を通じて、物事を科学的に捉え、分析する力を伸ばせるようにする。</li> <li>実験の予想や結論について文脈に表すことにより表現力を高める。</li> <li>環境や自然事象に関する学習に興味を持ち、日常生活に生かしているように教材の工夫を行っていく。</li> <li>ワークシート等を活用し、知識の理解、定着を図る。</li> <li>変化させる要因と変化させない要因を区別する条件制御の能力を高め、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の一連の思考の流れを、ノート指導を徹底することで理解させる。</li> <li>興味関心を高める教材の工夫</li> <li>条件統一の考え方を定着させるために、実験内容や方法を精選する。</li> <li>体験を伴う観察や実験を、少人数で行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な言葉や概念の理解が難しいところがあるので、実際の自然の事象や現象に適用する場面を設定する必要がある。</li> <li>課題を明確にして、予想・実験・考察等の問題解決学習を通じて、物事を科学的に捉え、分析する力を伸ばせるようにする。</li> <li>実験の予想や結論について文脈に表すことにより表現力を高める。</li> <li>学習を通して獲得した知識を、日常生活に生かしているように教材の工夫を行っていく。</li> <li>ワークシートやICT機器を活用し、知識の理解、定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことをまとめる際に、科学的な言葉に置き換えて説明できるようにする。</li> <li>興味関心を高める教材・導入の工夫</li> <li>体験を伴う観察や実験を、少人数で行わせる。</li> <li>予想やその理由、実験結果から考えられることなどを自分の言葉でまとめさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の要素との関わりを意識しながら聴くようになってきている。歌唱では、限られた互いの声を聴きながら、発音に気を付けて歌うようになってきている。器楽においても互いの楽器の音色をよく聴いて、演奏することを目指し、学習を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ただ音を出すだけではなく、自分の思いや意図をもって表現できるような学習を組み立てる必要がある。また、曲想と音楽の要素との関わりを考えながら、表現したり、聴いたりすることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりが気付き、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</li> <li>音楽表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴いたりするようにする。</li> <li>進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しみ、音楽経験を生活に生かしていることとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜の旋律の動き、リズム、強弱、フレーズ、歌詞の内容、曲の構成等からどのような音楽かを読み取り、その音楽を表現するために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</li> <li>楽譜から読み取ったことを基にどのように歌ったり、演奏したりするののかについての思いや意図を友達と交流しながら伝え合う活動をする。</li> <li>ペアでどのようにリズムや旋律をつくるのかを考えて発表して聴き合う。</li> <li>今までに学習したことを生かして、主体的・協働的に歌ったり、演奏したり、音楽をつくったり、聴いたりする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造との関わりが気付き、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。</li> <li>音楽表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴いたりするようにする。</li> <li>進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しみ、音楽経験を生活に生かしていることとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽譜の旋律の動き、リズム、強弱、フレーズ、歌詞の内容、曲の構成等からどのような音楽かを読み取り、その音楽を表現するために必要な技能を身に付けていく学習をする。</li> <li>音楽表現に対する思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴いたりするようにする。</li> <li>進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しみ、音楽経験を生活に生かしていることとする態度を育てる。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材に加え、木切れや厚紙・段ボールなどに触れる活動を通して、水彩絵の具やのこぎり・金づち、彫刻刀などの基本的な扱い方が身に付けられるように指導する。</li> <li>前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を選んだりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。</li> <li>自他の作品のよさや面白さを感じたり、それについて語り書いたりするよう鑑賞の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具は扱いやすいように場を設定し、材料は発達段階に応じて形状や種類を吟味して出合わせ、既習の技能については前題材を振り返りながら、技能が定着するように工夫する。</li> <li>既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていくように、段階的な配列を工夫する。</li> <li>製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見たり、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。鑑賞活動を通して、主体的に作品の良さを感じ取り、自分の制作の参考にしたたりする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでで道具に加え、針金や糸のこぎりなどの基本的な扱い方が身に付けられるように指導する。タブレットを活用した資料の検索や</li> <li>前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を選んだりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。</li> <li>自他の作品のよさや面白さを感じたり、それについて語り書いたりするよう鑑賞の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具は扱いやすいように配置し、学習環境を整備する。</li> <li>既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていくように、段階的な配列を工夫する。</li> <li>製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見たり、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。鑑賞活動を通して、主体的に作品の良さを感じ取り、自分の制作の参考にしたたりする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで扱った様々な用具の基本的な扱い方が身に付けられるよう指導する。</li> <li>前学年までの材料や用具についての経験を生かし、表し方を考えたり、意図に合わせて用具を選んだりしながら、表すことの喜びを味わうようにする。</li> <li>自他の作品のよさや面白さを感じたり、それについて語り書いたりするよう鑑賞の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道具は扱いやすいように配置や学習環境を整備する。</li> <li>既習事項を考慮しながら題材の順序を吟味し、次第に用具の経験や材料の体験を深めていくように、段階的な配列を工夫する。</li> <li>製作途中や作品完成後に、鑑賞タイムを設定し、作品を見たり、意見を交流し合ったりすることの価値を知らせる。鑑賞活動を通して、主体的に作品の良さを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めたりする態度を育てる。</li> </ul>
家庭科		<ul style="list-style-type: none"> <li>体験を話し合ったり、実物を観察したりしながら準備や手順等を話し合っ</li> <li>て計画を立て、課題を把握させ、実習する。</li> <li>工夫した事や感想を伝え合い、生活に生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことを実生活に生かせるように、調理実習、縫物の後に宿題として家庭でも取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験を話し合ったり、実物を観察したりしながら準備や手順等を話し合っ</li> <li>て計画を立て、課題を把握させ、実習する。</li> <li>工夫した事や感想を伝え合い、生活に生かせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだことを実生活に生かせるように、調理実習、縫物の後に宿題として家庭でも取り組ませる。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の体の動き方を感じながら運動ができるよう、体の動きに注目させる助言をしながら授業を行う。</li> <li>運動時間の確保に努める。</li> <li>自分で考えたり、友達と考え合ったりしながら運動に取り組むことができるように授業に考える場面を入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の動きに注目させる言葉かけを授業の中で意識的に行う。</li> <li>運動時間を30分とれるように努める。</li> <li>より良い方法や作戦を考える場面を授業の中に入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームの特徴に応じた作戦や連取方法を考えさせ、アドバイスを互いに交流させる。</li> <li>各自の課題点を明確にし、自力解決できる場の設定、グループワークを考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し課題を明確に捉えさせていく。</li> <li>各単元において、小グループを作成し、互いにアドバイスできるように指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームの特徴に応じた作戦や連取方法を考えさせ、アドバイスを互いに交流させる。</li> <li>各自の課題点を明確にし、自力解決できる場の設定、グループワークを考えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用し課題を明確に捉えさせていく。</li> <li>各単元において、小グループを作成し、互いにアドバイスできるように指導していく。</li> <li>準備、片付けまでを、皆で気持ちよく協力して行うことを大切にすること。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心から、自分の調べたい課題を見つけられるように記録の仕方を工夫する。</li> <li>課題についての考え方、まとめ方にも多様な方法があることを学習する。</li> <li>さらに、発表の経験を積み、自分の発表力、表現する力を付けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人での取り組みだけでなく、グループでの調べ・まとめ・発表の活動も取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科との関連を意識させ、横断的な学習となるよう、指導計画を立てていく。また、情報の収集と活用能力を高め、文章でまとめたり、発表したりする力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット検索や本を活用し、自分で資料探しをする時間をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の周囲の環境に興味関心を持ち、自ら課題を見つけ、解決へ向けて取り組む力をつける。</li> <li>他教科との関連を意識させ、横断的な学習となるよう、指導の計画を立てていく。また、情報の収集と活用能力を高め、文章でまとめたり、発表したりする力の向上をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本やインターネットを活用し、自分で資料探しをする時間をとる。</li> <li>社会科や理科の学習の発展として学習課題を立てられるように指導計画を工夫する。</li> </ul>